

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第3部門第2区分  
 【発行日】平成29年4月6日(2017.4.6)

【公表番号】特表2016-519649(P2016-519649A)  
 【公表日】平成28年7月7日(2016.7.7)  
 【年通号数】公開・登録公報2016-040  
 【出願番号】特願2016-500723(P2016-500723)  
 【国際特許分類】

C 0 7 K 14/705 (2006.01)  
 C 1 2 N 15/09 (2006.01)  
 C 1 2 N 1/19 (2006.01)  
 C 1 2 N 1/21 (2006.01)  
 C 1 2 N 1/15 (2006.01)  
 C 1 2 N 5/10 (2006.01)  
 C 1 2 Q 1/04 (2006.01)  
 A 2 3 K 50/40 (2016.01)  
 A 2 3 K 20/147 (2016.01)  
 G 0 1 N 27/00 (2006.01)  
 G 0 1 N 21/64 (2006.01)  
 G 0 1 N 33/68 (2006.01)  
 G 0 1 N 33/15 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 K 14/705 Z N A  
 C 1 2 N 15/00 A  
 C 1 2 N 1/19  
 C 1 2 N 1/21  
 C 1 2 N 1/15  
 C 1 2 N 5/10  
 C 1 2 Q 1/04  
 A 2 3 K 1/18 A  
 A 2 3 K 1/16 3 0 3 F  
 G 0 1 N 27/00 Z  
 G 0 1 N 21/64 F  
 G 0 1 N 33/68  
 G 0 1 N 33/15 Z

【手続補正書】

【提出日】平成29年3月3日(2017.3.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

配列番号18、配列番号8、配列番号12、配列番号14、配列番号16、配列番号20、配列番号22、配列番号24、及び配列番号26のうちから選択された配列を含む単離されたネコ科TAS2R(fTAS2R)受容体ポリペプチド。

【請求項2】

異種ポリペプチドをさらに含む、請求項 1 に記載のポリペプチド。

【請求項 3】

前記異種ポリペプチドは前記ネコ科 T A S 2 R 受容体ポリペプチドのアミノ末端又はカルボキシ末端に連結されている、請求項 2 に記載のポリペプチド。

【請求項 4】

( a ) 請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載のポリペプチドをコードするポリヌクレオチド；

( b ) ネコ科 T A S 2 R ( f T A S 2 R ) 受容体ポリペプチド、又はそのフラグメントをコードするポリヌクレオチドであって、

配列番号 1 7、配列番号 7、配列番号 9、配列番号 1 1、配列番号 1 3、配列番号 1 5、配列番号 1 9、配列番号 2 1、配列番号 2 3、又は配列番号 2 5 のヌクレオチド配列；

配列番号 1 8、配列番号 8、配列番号 1 2、配列番号 1 4、配列番号 1 6、配列番号 2 0、配列番号 2 2、配列番号 2 4、又は配列番号 2 6 のアミノ酸配列をコードするヌクレオチド配列；及び

上述した各ヌクレオチド配列の相補体

のうちから選択されたヌクレオチド配列を含むポリヌクレオチド

のうちから選択される、単離されたポリヌクレオチド。

【請求項 5】

請求項 4 に記載のポリヌクレオチドを含む発現ベクター。

【請求項 6】

請求項 5 に記載の発現ベクターを含む宿主細胞。

【請求項 7】

前記細胞は哺乳類細胞、魚類細胞、ヒト細胞、ネズミ科細胞、ネコ科細胞、酵母細胞、細菌細胞、又は昆虫細胞である、請求項 6 に記載の宿主細胞。

【請求項 8】

請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載のポリペプチドの f T A S 2 R 受容体エピトープに特異的に結合する、単離された抗体又はそのフラグメント。

【請求項 9】

ネコ科 T A S 2 R 受容体ポリペプチドと相互作用する化合物を同定する方法であって、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載のポリペプチドを試験化合物と接触させること、及び

前記ポリペプチドと試験化合物との間の相互作用を検出することを含む方法。

【請求項 10】

ネコ科 T A S 2 R 受容体ポリペプチドを変調する化合物を同定する方法であって、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載のポリペプチドを、別々のアッセイで試験化合物の存在下及び非存在下の両方において T A S 2 R 受容体リガンドと接触させること、及び

試験化合物が前記受容体ポリペプチドへのリガンドの結合又はリガンドによる前記受容体ポリペプチドの活性化を変調するかどうか判定すること

を含む方法。

【請求項 11】

可食組成物を調製する方法であって、

可食組成物又はその構成要素を、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載のポリペプチドと、前記可食組成物又はその構成要素に由来する苦味化合物の量を低減するのに十分な時間、接触させることを含む方法。

【請求項 12】

食味が増強された可食組成物を調合する方法であって、

可食組成物中の請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載のネコ科 T A S 2 R 受容体ポリペプチドのアゴニスト、アンタゴニスト、又はモジュレーターである化合物の存在を判定すること；及び、

前記可食組成物の食味を、

前記化合物がアゴニスト若しくは正のモジュレーターである場合は可食組成物中の前記受容体のアンタゴニストの量を増加させるか若しくは可食組成物中の前記化合物の量を低減することにより、又は

前記化合物がアンタゴニスト若しくは負のモジュレーターである場合は可食組成物中の前記化合物の量を増加させることにより、増強することを含む方法。

【請求項 13】

苦味化合物を、それを必要とする動物に与える方法であって、

動物に可食組成物を与えることを含み、前記可食組成物は、苦味化合物と、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載のネコ科 T A S 2 R 受容体ポリペプチドのアゴニスト、アンタゴニスト、又はモジュレーターである化合物であって、動物による可食組成物の受容を、前記化合物を含まない可食組成物の受容と比較して変更する化合物とを含む、方法。

【請求項 14】

動物に対する可食組成物の食味を制御するために可食組成物を調製する方法であって、

動物に対する可食組成物の食味を低下させるために可食組成物に化合物を添加することを含み、前記化合物は請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載のネコ科 T A S 2 R 受容体ポリペプチドのアゴニスト又は正のモジュレーターである、方法。

【請求項 15】

前記食味は、可食組成物を与えられる動物が、添加される化合物を含まない可食組成物よりも前記化合物を含む可食組成物を 10 ~ 30 % 少なく摂取する程度まで低下する、請求項 14 に記載の方法。

【請求項 16】

動物に与える可食組成物をコーティングするため、又は動物に与える可食組成物中に組み込むための香味組成物を作製する方法であって、

請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載のネコ科 T A S 2 R 受容体ポリペプチドのアゴニスト又はアンタゴニストと；任意選択で食味増強剤と；任意選択で、可食組成物への香味組成物の付着を助ける化合物と；任意選択で、色若しくは芳香を提供するための化合物とを、食肉加工品、食肉副産物、魚加工品、魚副産物、乳製品、乳製品副産物、微生物タンパク質の供給源、植物性タンパク質、炭水化物及びアミノ酸からなる群から選択された材料と混合して香味組成物を得ることを含み、

前記香味組成物は、液体、固体、粉体、ペースト、ゲル、スプレッド調合物、顆粒、又は噴霧用調合物である、方法。

【請求項 17】

動物に与える可食組成物をコーティングするため、又は動物に与える可食組成物中に組み込むための香味組成物であって、

請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載のネコ科 T A S 2 R 受容体ポリペプチドのアゴニスト又はアンタゴニストと；

任意選択で食味増強剤と；

任意選択で、可食組成物への香味組成物の付着を助ける化合物と；

任意選択で、色若しくは芳香を提供するための化合物と；を含み、

香味組成物は、液体、固体、粉体、ペースト、ゲル、スプレッド調合物、顆粒、又は噴霧用調合物である、香味組成物。

【請求項 18】

前記可食組成物は、食物、おやつ、栄養補助食品、医薬品、口腔ケア材料、咀嚼用製品、忌避剤、又は飲用製品である、請求項 17 に記載の香味組成物。

【請求項 19】

前記可食組成物は、食物、おやつ、栄養補助食品、医薬品、口腔ケア材料、咀嚼用製品、忌避剤、又は飲用製品である、請求項 14 ~ 16 のいずれか一項に記載の方法。